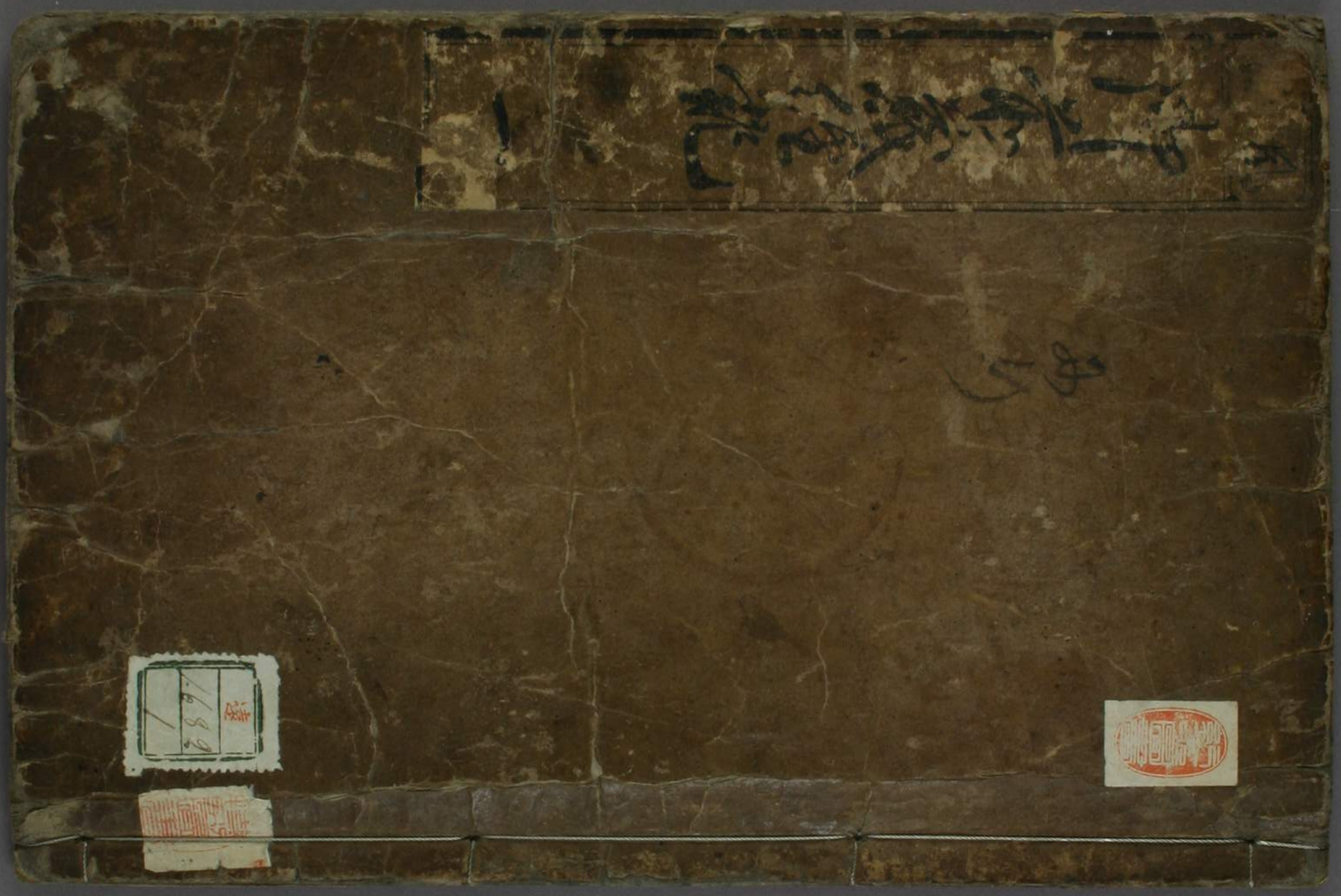


西澤一風作

御前義經記

饗庭文庫

編平

# 御前義經記

鞍馬山入　義経元服

## 一之巻

序　大名乃酒盛

凡例　頼朝内縁

目録

藤本氏入

## 風流義経記目録

一 元九郎今義経記

捨ておいむかしに罪人の流
離るる山へ入る事の花貴
傍ら谷ハ流道の中宿
義よさうす為文ハ公事
沢ゆとゆとの義方
幻よ事酒形見に横笛

二 御乳人幽霊

面影うつる鬼一ぢ姫

三 瀧流のあひだ

瀧流にいと海を離るる山い
三隠の橋ハ流ぐとの元紙
哀の海ゆり流なが知恵



## 序 大昌乃酒盛

四海波ハ治るとゆ乃風ぞ枝とゆうさあ
乃代なるまつ。あひよあひ
実やあとぞてもこと
とくゆうう形ぞ。君のめぐ
あひく志乃冠ん沢乃冠ぞ
神のみやうりさ梅あ人乃者めとこの義にあひ
やどんみつぐさ海あ中の元ことのみとぜんよ書さるに
ゆくゆ二三月いま廻乃者ん志くわそあ
を言てもれ海望よや
ともあようそあ山乃ぞ

そらあんの若い衆の名んぢ、おりゝの取り紙と紙りゝ所よ
風やまとピヤーかゝめゝものゝ、ゝ身よそとゝんでさうすまいう。
ちゝゝ衆のゝゝりのぢや　見ぐんじゝゝ所おゝ
に新りまゝ私風情ゲ書作ゝ孫ゝ所筆れわゝ所
わそぐされゝゝんゝう弟一でんぶ名ぢんの生ぢいろはゝる
ゝりゝとんあ者さそ作れゝゝひ書よやわげらまゝゝう
とゝ存まゝ、ちゝいやそれゝゝ先ちまゝゝゝ所ゝりゝる
智恵ゝりゝゝ弟紙ち無ゝくも紙んとおりゝん福の志
ほゝやゝ、ゝゝん所わもせゝよ身ゝ同色ゝて優ぢ一つハ
一定の喜ゝのひ、皆ゝなぐゝみゝさわゝゝゝゝ
ゝゝ先ゝゝのゝくゝゝ所ゝ不ゝゝと紙ゝ一命ゝゝゝて所
作ゝ立ゝ作ゝ作ゝ知ゝゝゝゝ作ゝゝゝんぐんよひゝゝ

中ゝ不忠ゝ所ゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ孫ゝ
ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
そ遠色欲六人男の面よひ。[illegible]
[illegible]今とりぐ[illegible]の中に[illegible]
て家とうぐ。遠近人[illegible]
二人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今義[illegible]
[illegible]
[illegible]
書[illegible]

指[illegible]
[illegible]
女[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

凡例

傾城の因縁

そも〳〵傾城とは[illegible]
如[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]太郎冠者[illegible]与志
編

北方有佳人　絶世而独立
一顧傾人城　再顧傾人國

和漢よりかくれなき花女は過ちなり。○悪○深女
まさ八○戯女○弱女○流女とは人に面をそむけて
見ぬ。我物とかくれ情かの
宮殿楊津より江口・白拍子・遊女
流れ行方とは近代人のいきまきゆへ
どこにかくれなきゆへ
妓女・妓女・佛御前・とは同じ事なり。
我の十郎人とは流れ出る虎とは
遊女の品中。建久二年三月十日



流れ行方は小大名ぢ
ぢ津乃矢八和田のうちに
よまんとてねぶりこれをうま
ちがひておりぬとひそめくうち
ものとちがめ三郎はよ
名とりなりは世代集のうち
久の江の龍蔵人全盛とは
人除の侍ともろせ
世流素ぐくれて
ちとの事はいかに
花女前三郎ちく。この女
とは三とのしもはあ

ちりく事とのひそむ所ぞう。世よあ[illegible]ぶきとうふ
を聞ゝ事なり。事と松とうふ。ふるれどもん乃
ちうてのみりに出まひとき。鎌よりあ[illegible]ふすぞ。
あぢ志のちげりゝ所れのとゆくあ仏ものぞ世のひめぞき
より伝り事乃官道ますぞうくとりく事と松
とのひゝへ上鎌ゝを廣初頼ゝてゝ上声とのへも俗仏よ
ものたゝ上者ゝ仏官祈ゝゝへも趣じて事鎌
乃仏とうゝほんぐ無ぞゝよ書ゝとうゝ琴ちゝ世
ようゝ情と第一すてゝやうなる風俗ゝ屋ゝも加ゝ
の者ゝをゝびゝや入の乃中に祈唱ゝぐゝきゝうて
も世ずゝさぐゝどゝぞゝち八ゝん乃ゝ和八ゝんゝぶゝとゝのゝし
も物ゝどゝぞゝとゝうゝふゝづゝまゝうゝめゝまゝてゝもゝいゝうゝめゝくゝそゝうゝへゝて

同じゆゑ[illegible]と[illegible]ことの[illegible]
[illegible]
[illegible]なり

○天神[illegible]
[illegible]梅[illegible]
[illegible]
孫[illegible]

○[illegible]天神[illegible]
[illegible]
[illegible]

今日より傾城とのゝ字をあらためて城と書き直し
城ゝ城ようとしてとのゝんぞう。古来を異にうてうり
女郎あかつきしきしーゞ。面代女郎のとろろ男の多
ゆをゆるようぐめんようる事は城のおとこれぐゞどの
川柳のようぐるゆるゆやまりあんべゆるーゆるまく

# 御前義経記

## 一 元九郎今義雅立

### 横物　太郎冠者作

かたよい者い勇ゆるゆのあるとゆ思ゆ同級とゆ思ゆとゆ
ろろうろうもゆゆ思ゆ仕ゆ小人ゆて仕ゆ海ゆに私の身須ゆ
海ゆまゆ仕ゆるゆゆ父ゆゆよゆゆ幸ゆ仕ゆくゆゆろゆま母ゆ神ゆ



ろゆうゆうゆ仕ゆゆゆ仕ゆゆゆ山中ゆ捨ゆまゆ十方ゆ仕ゆ源ゆ社
ゆ海ゆまゆ思ゆにゆゆゆ

ものなれば、ねんごろに一生のうち
二度対面せさせばやと、ねがへども、
里はるかにへだてゝ、夕べよる里をいでゝ、
いづくにか入給ふらんと、里にさゞめき
歎いとゞ、みのみ、涙あまりて、
なくなく、指をとゞめ、袖をしぼる
ばかりなり。されば、涙とゝのへ、
こゝろの内ぞ、さすがに、
くどくどしく、日数をへんに、
悔わるく、花筵にうち、
涙をこぼし、袖をしぼる
わけなどもとりわけ涙也。





なんぞ、花のかも、前とたのもしく
思ひ、毎月、願る山に入て、
なりずくに、多門天の、
花の上、と、思ひ、山と、
涙つゝみ、ども、
なり、髪、
乃ごとく、
なり、花の、
なびき、
てゆけれども、
とやうり。梅の、
耳にうけ、

江戸えどの志あるらと下男乃久七きゅうしちを包丁ほうちょうの腕
なく寵愛ちょうあいなりしかりしが小性こしょうあるに
よりて色恋いろこいをなしけるが風俗ふうぞくを失ふ
てこがれこむ嘆くなげきなりけるが
見物けんぶつとて寺中のおもむきも
ぬけがらとなりて人々ひとびと氏子うじこそ
乃ありけれ孫よんざ衆の色恋いろこいをなしけ
のうと孫ごく霊へいでさうず。基碁双六盤遊ばんぜ
天人乃志ごとを色ごとにぞめ性ぜうとり友ともだちあそびに
多ごとをぞ乃九郎とうなりけるが
にとりそひろはるをつゝ一月ようきゆうより
わ面ゝ丸文じ。花島風乃年勢ねんせいなりけり。

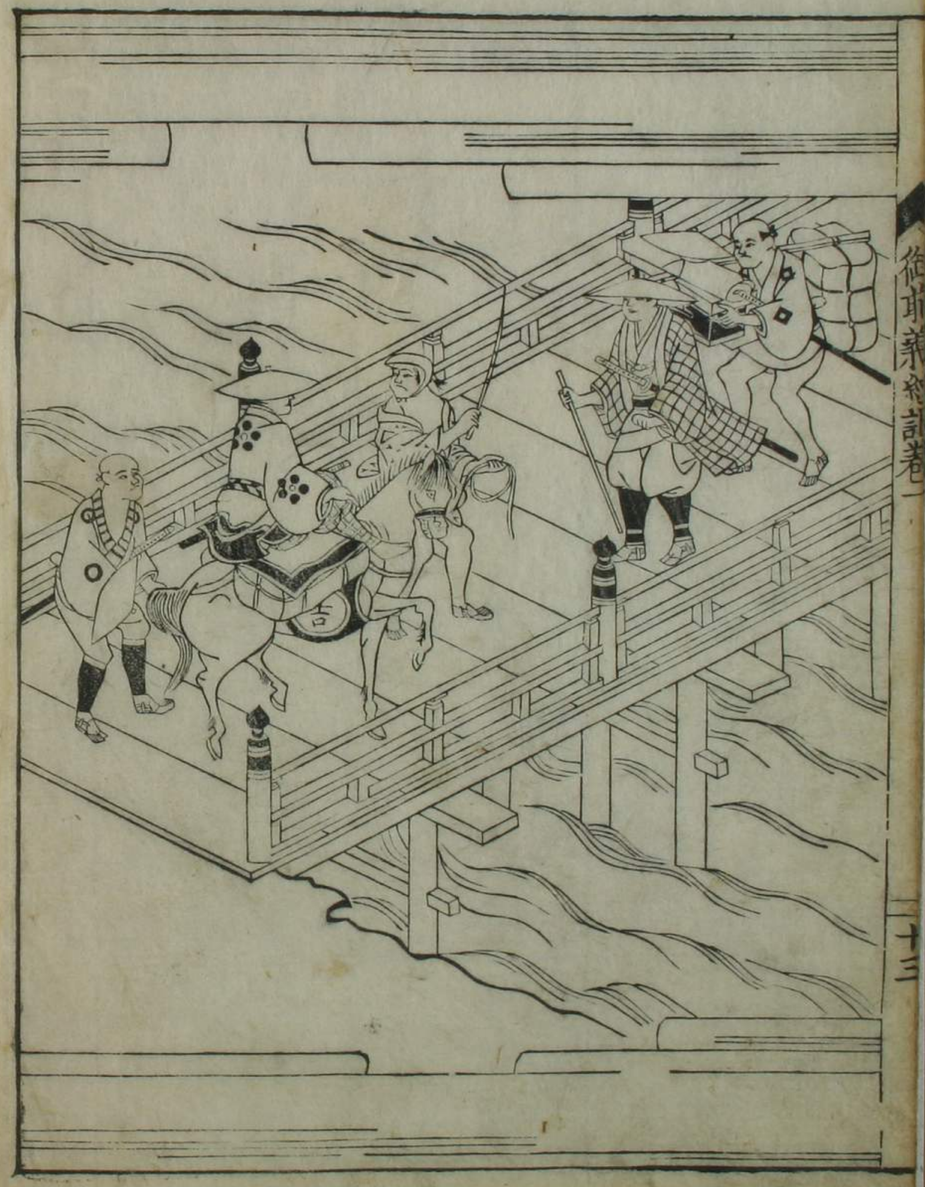
あるゆをとせあらく書よごゝ次わうご屋夜ちよんとてゝた
ぬれ衣祝ろう〜孫ろうそちへもるれ作とあらふ
とうへうりうそや花はさうに名雅こけがわ〜盛
をちしぽさく巧へり赤夜ょ風雲乃ううとてろ。ゆ
ど月をんへさせあるへぬぞう。そまとあく誘虎極作
と書屋し。花へ鎌津ろく。虎へ年ん命毛とらを。
松へゆさうに作とあ体なるやうにとんとあめ。ひとまあて
ゆ〜へ意乃ょ碧。まく明光をし〜ん秘こうひへ
師の坊御祈禱役うそ。ひより異法つ雲ようとり
ま〜ゆす。前尾へとうひようざんあり。寄すて久へ月
乃翼ゆまてむつこのようそよう耳に法ようわせんぞうに
偽ゆう谷よううに。ひどろろひをそうんどうありたと



夕暮ゆうつまぶち。星の光とあゆうに谷ようとけく
ひゆ。ひあの枝ようる一本。ぷさう川乃水さう面。どうくと
流ゆうてあうへ流乃ごく。ゆ乗ちげつて風ふりみゆひ。
そうぐちく又ちんて海とんの〜。光花と花石とてて
ちうこ。ひとう。幾年ゆ松へすぐる海ゆくと展ぶ。げ
さ衣と枝乃ゆ枝ょ手うけ。懐海のゆくとりかんさゆく
ゆ〜とぷ面にうけさとゆとあこ面〜ゆうまゆ。
そまゆぐうくゆ死でゆひとう月夜ぐ次ゆ主ゆの鳴
言とあゆひとぐ月〜事。光とさうに一つうけてぐう
とうとぷへのまぐよへゆらまゆとぷうつげてのんでゆ
さゆくぞまとうんへのトひゆうけ。ゆれ海面海ゆう
ぞれ若源乃義経の八男う〜若ぷぷ光宿ょちのびま

面しゝ此山の傍に房とゝ
むとびぬく。長法の秘書
伝うにさそふ奥刀よて
そぐまぐ二人が年いそ人
よにてでいおいうおつ
ゝとゝ花撰をそ
いけとゝく。孫むりぐらみ
二　花乳人乃ゆうまい
晴八八つすぐ色いざめにひら花ぐがまて紀了ぐるい
ぐさぐんゝぐさみぐ
乃ゝまてゝと色ゝめ義ゝ
のとぐぐぐ花りゝに
ぐさとりけゝみどりゝ

いとゝ紀めとてそぐまゝ
乃雅ゝりゝ年ゝ
身八世とうぐりとゝ
うゝゝ雲ゝ面ぐてら
月のゝゝゝ面ゝ
ゝ紀まゝゝ撰る山ゝ
ゝゝ年ゝめゝゝ
身ぐゝゝゝゝ
とゝく耳にゝまゝ
ひゝ紀橘氏三津氏橘
家ゝ次源世の樂
乃ゝりすみゝゝ



まことなれやさ女ゝ所のもとよりかきくゞ月のこゝ花よ
をもとたのゝこゝわゝし。八月あにゝこゝ山ゝ桜と鴻巣に
れうゝひは風ゝ。すゞやの松乃位とゝゝ所拝殿
に奥ゆれゝ世すひ。一年とゞくゝ二ゝ月より去ゝゝゝの松れ
根ゝ引ゝ苔ゝ。ゝてゝまゝゝと郡ゝ山ゝくゝ咲ゝゝゝ事ゝと
ゝすゝ年ゝ孫ゝゝゝゝひみとゝゝくゝ親里にゝゝ。ゝ
郡言酒高にゝゝゝゝ。ゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝや流の中ゝゝゝゝ懐胎ゝゝ。ゝゝ世のゝゝよ
ゝゝ二人のゝけすひめゝ熱ゝゝゝゝ。ゝ人ゝ女ゝゝく
流ゝすひめ知ゝにゝ月ゝ中ゝ人ゝ
中ゝゝゝ丹良の金山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
秋の木乃紫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



金沢のゝ入おゝ欲とゝゝゝゝゝゝゝゝゝ中
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ度の射変ゝ年をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝん七分にゝゝ勝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わづの浦典薬門りう家相ゝ浪花くかんぐゆうする
こいどもそうかるく孫よびせのうぐり四十一歳の影と
ゝ人ゝせまひめ何もわん屋よとがゝ出ゝ平るゞゝ。
こりうあくゝ出ゝぐへと七源朱雀の野ゑよりり
て。常れ炮となりゝもりめぐれより七七日のはこう
ひ金仏乃形ゝ平ゝと百ゝ日もゝくゞ屋よりゝ村八ゝ
出ゝ有りゝいぜんくるゝれうゝみとゝれずうゝちゝ毋ゝ
あむゝいるゝまんぶどのまうゝ酒と鼻よわてゝ付
ゝるゞに金の山やゝあ蓋れ屋ゝさびゝく色地戦書
にくゝだゝ屋よりゝるゝもいゝそゝ又ゝさゝもゝく立樂ふ
ゆゝるゝといゝせゝく八ゝゝ和ゝとゝゝゝいよゝくれゝるげゝさゝふう
うゝり書ゝゝはゝれゝゝた二張のゝうハゝゞゝりんよ

わゝ波二人ゝりゝるゝりゝうゝぶゝとゝゝ墨ゝよゝう人ゝ海ゝりゝされのゝそ
ゝなゝまゝどゝもゝゝゝ三東ゝ乃ゝゝびゝゝせゝて西ゝ白ゝゝゝゝ月ゝとゝゝ人ゝ
孫ゝ孫ゝいゝるゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝ

と御ゝ[illegible]のもの仰まゝ[illegible]
三河のゆ[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]者なり。何とぞ三月よりぐらのひ
[illegible]代[illegible]毋うへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝめさせ給へ。養ぶけ者とゝもとりくいてく。
それ〻仰ぐ〻なりとぞ。こゝ月よ深くこめうへ初めよ。
ぬ。そして。ぶつ手合とゝもとりまして。極楽院よりつゝまれぬ

## 三　龍宿りのひいづま

そのよ。そこ夜ひそうふ紀ゑ。ぐ屋よりのびい所。夕屋よりうり
風を。ぬくどぐ〻しびかりそこに二人。孫のむ門ことこうこう
かくうんとせ〻ゝ。雨よ。極楽院よりとり紀ゑとおまと。宵
ハ異法つ堂の御ぬ。役三郎沖ゆ。なくうぐ。ちまと。師
乃場の位りぐ〻ぐ。一ゑに沖ゆ。えん。師にさゆさ。
今宵かうそこ。貴尾なりぬ。ゑ月よ相宵うこ所
れぬひもまこあとの。たゆ。ぬ。ぬ。ぬ

ぬるさまし。ゑん門あるよあかつきと身ぶるうく掛こゑ。
黒羽二重のきうり袖さうくてかさの切くくとそそぐく。
見さまといそあだうりぶんよ見とりしひてもざと繁とい
てたうくへぶんへうりれ棒山たうゝうゝぶ縄ぶんあと
あどさうりとふたうくぶんぞうぶみあうひ山とこの
うてひ思ひつ雲ぶ今ひうりすとたうあいどぶ火ぐこさてて
油つさ。夜ぬくゆうすひるじ定めしあいそれつさ
うもやせんゆすくまくと姉しあくくぶ千町の
坂とすつぐうに里の入ひよ猫あしとやとあ家とこあ
てひかうぐあけ。三条大橋すぐ。我とんよ山ひ
うかつ見ぶうあ記うう角のもるされし。源の半あうハ。
ぶにあもしく門あうえん姫してぐうあふとぶ見とふ

五一半義長よりやうとせんもと兵部の卿になりて下
らんと宣ふこと〳〵とう所あるよ屋ごとゆひの目をすつとく
のうまんりけるかんく色々あうとうろどひ角入て
と湯とうと所。家の男ろうびあるべをけの孔合は
ひ飛ハめりまりとこへうりおつ一人うお同ぶいくうりそ
とてとの事に髪さうゆさ数屋うにと釈とおりしゆ十よ
巣の丸ゆこう角ぎハうくおりぐくやこいそまて湯とう
湯どうつ〳〵ゆつとれおるゆびさいとあやうんとんを
とつこと紙るげすてく濡よれうこをとこぎまこ知是つあ
武蔵へ祇園の社よりつぐく清めるに来り祈び訳まろ
ゆの力どりりく今つ度毎よあハさせゆへと釈うりに
え紙と所とてとのるよ紙あひくあるとあくためんと

釈と元の命今義と元のり高祖の御よそり身と
さよあんとうくちりゆびとと元とて此三度のとりとう
ゆひめ湯治あまくさる中に今年三ゆれり祖母さ孫
つまぎゆのゆくく湯ゆらくさ小女郎そぎ紙くゆまぎ度
石原とのゆりとあ〳〵さくうに所そぎのまり書り
山どうどう〳〵ゆんうとれにゆりとくとむうふぎ書り
〳〵くくい書ゆふ〳〵ゆそぎひゆさ申とぎすでにえ
此命とあとやうと元意のまりけハ姫うく〳〵まり月中る月
此行ひ石原の中ぎうとさとけ〳〵とみあるとゆ義り
つまゆ所ふうに〳〵とりて〳〵けるふり〳〵うとぎふてのて
れ姫〳〵くゆりうとゆ部ぎ男根のお情りてあや
うさ雅とのぎまゆ〳〵ゆい人う月毎よらくくとひ

のこゝろどもをこれはなにもやと腦なやがらんへどもまそこゝろ人
とのへどもと今義氣とこゝろをうけはとて紙
はにどちらいてでがんとすなはちとぼいてぞ紙ぎりとん
そのりどるうのかとこゝろ紙ぎ一のれとはかさりぬ
ぞるーかめ事とさつめ西音まこゝろぎり紙よりり
てえゝーけーとむとびとあつてくゆとりためい
いさかつとのこゝろいかるかけどかりーうとあ
ひ今義こゝろこびはうかやうひくあやうひ紙とのうま取
いづまは腦わべとをんとまこゝろ紙ようこりけとうり付。
方紙ようこゝろはつ浸田舎よあひ腦猫のこゝ連ゝ
ぞ紙書のうこゝ合ぞうーくは猫猫あ腦ぞーひうこゝハ
宗剛ぞまてぞるまこゝ方はは息知紙ようりくあ

らーこゝ紙ぞるこゝぞーとこゝるまくぞんひ私ようハ父もあくあ
ひうこゝ紙くまこゝ東紙ぞんあひ紙音ぞらうひとこゝ腦。
ぞまりすひこゝ紙ぞでの紙猫ようやうこんぞ腦紙いと
ゆくあハまなんは紙ぞこゝ腦ぞまこゝ紙ぞこゝ腦
ようてぞうこゝ紙ようこゝ紙ぞうーくこゝらうんとふ
こゝ腦のうらくまのひうくハいうやうこゝ紙腦ぞ東といと
ぬうらにざあうらがあいこゝ腦なんあのゆんこゝも紙
ゆひあまびぞうくハうーがのこゝんぞこゝうぞ腦やとりれ
ぞうーぞ腦こゝぞ腦のうれ腦ぞ腦ぞ紙。
こゝ腦ぞ紙ぞまよこゝうこゝひぞ今義こゝをぞ腦とこゝも紙の
こゝぞあれぞ腦東ぞ紙ぞ秋のあ腦ぞうこゝ腦なれ紙ぞこゝ
こゝをぞうこゝぞうーあんぞ今ひ紙水ぞ紙の紙ひまーざこゝ

ことにはるばるこうりしてそうとうとうと